

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス おりーぶ瑞穂		
○保護者評価実施期間	令和7年11月1日 ～ 令和7年11月15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29 (回答者数)	23
○従業者評価実施期間	令和7年11月10日 ～ 令和7年11月30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15 (回答者数)	14
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちの理解や支援について共通理解を職員間で行い、適切な個別支援計画を作成し、子どもの特性に応じた専門性のある支援を行っている。	専門職(OT・ST・心理職)がいるので子ども一人一人のアセスメントを行い、集団療育・個別療育が必要である子どもたちの療育を行うことができる。 児発管・専門職員・児童指導員・ドライバーと多職種による会議を行い、療育時はもちろん、送迎時の情報共有も行い、それぞれの子どもたちに合った療育を行うことができている。	引き続き職員間での子どもたちや保護者様の情報共有や共通理解を行い、ひとりひとりに合った療育を検討し、行っていく。
2	職員が保護者様に対し共感的に支援を行い、日頃から子どもの状況を保護者と共通理解している。	連絡帳にて保護者様よりお家での様子や学校であったことを共有いただいている。また、事業所としては連絡帳にてその日の様子をできるだけわかりやすくお伝えするようにし、送迎時やお電話、HUG、希望による面談などでも連絡帳では伝えきれないことを相互に情報共有させていただいている。 子どもの怪我や体調不良についてはすぐに保護者様にご連絡をし、様子や対応について、報告・相談させていただいている。	引き続き、連絡帳・HUG・お電話・送迎時・面談によって、子どもの状況の情報共有や共通理解を相互に行ってい、共感的な支援に努めていく。
3	イベントや活動が固定化しないように、毎月季節ごとのイベントの他にも幅広い内容の活動を考えて子どもたちに楽しんでもらっている。 また、イベントの内容などはブログやSNS等で発信し、保護者の皆様にも活動内容が見えるようにしている。	イベントを考える職員は固定されているが、チームで話し合い、季節のイベントの他に公園や他施設をお借りして広い空間を利用して身体を動かすイベントをしたり、制作活動やクッキング、お出かけ、保護者様をお招きしたカフェ(参観日)の開催など様々な経験や活動が出来るよう工夫している。 イベントの内容はブログやSNS、HUGでの活動報告をし、その日利用した子どもには写真を保護者様にお渡ししている。	いろいろな職員の意見も参考にしながら、子どもたちが喜んでくれるイベントを引き続き考えていく。 また、引き続きSNS・HUG等での発信や保護者様への写真の提供も続けていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員不足であること。 専門職員が個別療育で不在の時間や送迎時の運転・添乗などで職員が事業所を出る時間帯の他スタッフの負担が大きいこと。	利用定員に対しての人員配置は満たしているが、子どもの障害の程度や利用人数の多さによっては職員不足であると感じる日がある。 専門職員が個別療育中であったり、送迎時に職員が事業所を出る時間帯は職員の目も手も足りていない。	職員の募集は引き続きかけつつ、専門の個別療育をする時間を工夫したり、利用人数の調整を行うなどする。
2	利用人数の多い日は適切なスペースの確保ができていない。	利用人数の多い日は2部屋に分けたり、個別療育の時間を調整しているが、小学校高学年や中高生の多い日は身体の大きさもあつてか、部屋が狭く感じることがある。また、利用人数が多い日は、特性に合っていない環境でも子どもに我慢をさせなければならぬ状況がどうしても生まれてしまうため改善が必要。 仕切りのある部屋のスペースを使ったり、パーティションを立てたり、テントを使用したりと工夫はしているが、クールダウンする子どもが複数いる時はスペースが足りないことがある。	引き続き複数の部屋の活用をするとともに、体格も考慮して部屋を分けたり、利用人数の調整を行ったりする。職員の人数に余裕がある場合には、近くの公園なども利用する。
3	保護者会の開催等による保護者同士の交流の機会がしばらく設けられていない。 きょうだい児への支援も乏しい。	保護者会は子どもたちの利用時間後に行うため、職員の人的・時間的余裕がなければ開催が難しく、保護者同士の交流は長らくできていない。 きょうだい児の支援についても職員の余裕がなければ難しいが、以前の保護者会の際にきょうだいも一緒に来られたご家族もあったので、保護者会と同時にきょうだい同士の交流もできると考えられる。	11月にご家族をお招きし、子どもたちが店員をして参観日も兼ねてカフェを開催し、好評であった。引き続き、ご家族をお招きした参観日のようなイベントを企画・開催していく。 また、保護者会や親子参加型のイベントも企画・開催し、ご家族同士の交流の場を設けたい。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
放課後等デイサービス おりぶ瑞穂		R8年 1月 26日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10	4	利用者数が多い時は部屋を分けたりST・OT・帰宅時間等、調整されてるようです。利用人数の多い日は部屋を分けてスペースを確保している。 第1教室・第2教室・児童教室を人数に応じ柔軟に運用している。 人数は多いが、部屋が2つある分、状況に応じて適切にとっている。	人数が10人を超えている時のスペースが狭く感じる（体格が大きくなつて）。利用者の多い日は特性に合っていない環境でも我慢させないといけいない為、改善を必要とする。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	6	急な事情での休み（体調不良や身内の不幸等）なければ1か月前ぐらいからシフト調整されています。 子どもの特性に応じて、配置・担当を決めている。	利用人数の多い日は人手が足りていない。送迎等の兼ね合いで一時的に職員が少なく感じることある。 送迎等でスタッフの目も手も足りていない。スタッフの数が少ない時がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	12	2	シンプルな造りで迷うことはない。	段差はあり、フラットではないですが、現状、車いす利用者がいないため、問題ない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	12	2	身体を動かせるように、室内の真ん中は広く空けている。	過ごしやすい環境づくりに努めていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	13	1	部屋の奥のスペースを活用してクールダウンや音の苦手なこどもが居れる場所にしている。 衝立を立てたり机の端にブランケットを掛けて対応してスタッフの工夫を感じています。 必要に応じて空間を仕切ったり、部屋を分けたりしている。	同時にクールダウンする利用者が何人もいる場合は足りないかもと思うことはあります。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	11	1	職員に対し、参画の呼びかけを行っている。	引き続き、行っていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12	0	会議や日々の伝達で業務改善につなげています。 毎年1回アンケートを行っている。	引き続き保護者様からの意見も取り入れてより良い療育につなげていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	2	その都度、何かあれば報告し、相談。会議でも取り上げ、改善する。 月1回会議を行い、意見交換をしている。	引き続き、行っていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	5	保護者へのアンケートなどしている。	実地指導に向けての準備などは主に常勤のスタッフがやっているため、行われていることを知らないスタッフが多い。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	12	2	研修受講することで職員の質の向上にもなり。期間もゆとりがあり、受けやすい。 動画で研修内容を配信されて時間の都合をつけやすく良い。	職員全体が発達障害に共通理解が持てるような講師を招くか講演会が必要。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	14	0	支援計画等で公表されています。 5領域に沿って適切に作成、公表している。	引き続き、5領域に沿った支援プログラムを作成、公表していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	12	0	日々、子どもたちについて報告・相談し、利用者と職員同士の話をもとに作成されています。	引き続き、子ども自身の意見や保護者様へのヒアリングを通してニーズや課題を把握し、発達検査の結果や職員間の話し合いの上で、作成していく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	13	0	日々、子どもたちについて職員同士の報告・相談のもと、話し合う機会がある。 月1のミーティングやプリントで配布されている。	今後も職員間での話し合いを行い、わかりやすい個別支援計画書の作成に努める。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	13	0	月1回のスタッフ会議	引き続き、職員間で共有し、計画に沿った支援を行っていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	12	1	発達検査や知能検査を外部などで受けた場合は、検査結果を共有してもらっている。	引き続き、行っていく。

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	13	0	スタッフ間で話し合い、それぞれの子どもの段階に合った支援目標、支援内容を設定している。	引き続き、それぞれの子どもに合った支援を考えて療育を行っていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	13	0	チームで話し合っている。	引き続き、チームで話し合っている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	13	1	季節のイベント以外にも子どもたちが楽しめるようなイベントを企画するよう努力している。 月一回会議等で必要な支援を確認している。	基本、常勤で完結してしまうため、非常勤職員にも意見を聞いていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	13	0	OTやSTなどの個別療育や、イベントなどの集団活動についての項目も個別支援計画に取り入れている。	引き続き、行っていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	12	2	職員が的確にパートに声掛けされ確認でき、コミュニケーション良好と感じる。	必ず打ち合わせをできているわけではない。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	12	1	日々、子どもたちや保護者の様子は社員の方へすぐに伝えています。	全職員への周知には時差がある。 毎日行っていない。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	13	0	子ども一人ずつ記録を書き、データとして保存している。	引き続き、行っていく。 個人情報の取り扱いに留意する。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	14	0	半年に1度モニタリングを行い、個別支援計画の見直しを行っている。	引き続き、行っていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	13	0	すべては難しいが、複数組み合わせ支援を行っている。	引き続き、4つの基本活動を確認しながら支援を行っていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	11	1	何をして遊ぶかや、おやつ選択など、子どもたちが自分自身で選択できるような環境にしている。	引き続き、子どもたちが自己選択できるような環境づくりを行っていく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11	0	児発管を中心に、その子供の担当になることが多い職員が参画している。	引き続き、行っていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	2	協力医療機関、市の子ども福祉課、相談支援員などと連携している。	引き続き、連携をとれる体制をつくりいつも相談等できるようにしておく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10	1	学校のHPや保護者様を通して、行事予定や下校時間の確認等を行っている。	学校でのトラブルがあって子どもがデイに来る際に、学校からの情報共有がないことがある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9	0	系列の事業所から放デイに入所する子どもたちの情報共有・相互理解はできている。	引き続き、情報共有・相互理解に努める。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9	1	おりーぶの就労にあがる子どもや移行先から要望があった場合には情報を提供している。	引き続き、支援内容等の情報提供をしていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8	2	モニタリング等で地域の発達支援センターと連携をとっている。	引き続き、連携をとれる体制をつくりいつも相談等できるようにしておく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	5	おりーぶグループ内であれば、フリマのイベントなどで会う機会がある。	地域の子どもたちとの交流はあまりない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7	2	市で行われていることは把握している。	引き続き、機会があれば参加したい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12	0	日々、伝達で職員間、保護者様との話はすぐ伝えて話し合うようにしている。	引き続き、行っていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9	1	家族会や参観日は設けている。	最近は保護者会を行うことができていないので、行う機会を作る。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	11	0	契約時に説明している。	引き続き、丁寧な説明を行っていく。

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	12	0	個別支援計画作成の際には必ず保護者様へのモニタリングを行い、ニーズやホープを聞くようにしている。	引き続き、子どもや保護者の意向を確認する機会を作っていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	13	0	送迎時や電話にて説明を行い、同意のサインをいただいている。	面談等の要望があれば実施していく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	12	0	日々、何かあればすぐに社員の方へ伝えている。すぐに対応されています。電話やHUG、直接での相談に応じている。	保護者会等で定期的に相談などできる機会を作っていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	11	1	保護者会を開催している。	最近は保護者会を開催できていないので、行う機会を作る。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	12	0	苦情は今のところないが、あった場合の体制は整っている。相談等については柔軟に対応している。	引き続き、体制の整備と周知を行っていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	12	0	毎月、ブログや行事予定を発信している。会社がSNSなど運営している。	引き続き、行っていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	11	1	個人情報は鍵付きの棚で保管している。	写真撮影について考慮すべき点がある。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10	0	イラストやカード、手話を使ってコミュニケーションをとっている。	引き続き、工夫しながら意思の疎通や情報伝達を行っていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	10	2	月1回のフリーマーケットでの交流があります。	フリマ以外で地域住民との交流を図る機会があれば作ってきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	13	0	マニュアルを保護者に配布している。年に数回避難訓練等も行っている。	引き続き、行っていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	13	0	BCPを策定し、イベント等で避難訓練を実施している。	こまめにBCPの見直しを行い、引き続き避難訓練を行っていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	14	0	研修等、事前にてんかん発作について確認している。変更点がある度に保護者に連絡していただいている。	引き続き、職員間で確認を行っていく。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	14	0	アレルギーについてもリストを作成し、おやつを保管している場所等にわかりやすく提示している。	引き続き、職員間で確認を行っていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	13	0	地震や台風時などの対応をマニュアル化し、避難訓練を行うなどして安全管理を行っている。	引き続き、安全管理を十分に行い支援をしていく。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	13	0	マニュアルを保護者に配布し、緊急時はメールでやりとりできるようにしている。	定期的な周知を行い、保護者の方に安心してもらう。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	14	0	ヒヤリハットがある度に報告書を書き、スタッフへ共有している。	引き続き、再発防止に努めていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	14	0	研修の動画でより対応を学ぶ機会があった。	引き続き研修に参加し、虐待を防止していく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	12	0	個別支援計画書に身体拘束についての項目を記載し、同意のサインをいただいている。	引き続き個別支援計画書にて保護者の理解を得ていく。